
DEBUG ;

機能：

DEBUG はDEBUG スイッチをオンにします。このスイッチがオンの時は、TSP は通常よりかなり多くのプリントアウトを行います。このアウトプットはユーザには余り関心がないものですが、TSP プログラマーやコンサルタントには役立つものです。

使用法：

TSP プログラムのなかで、付加的アウトプットが欲しいコマンドの直前に DEBUG ステートメントを入れます。DEBUG スイッチはNODBUG ステートメントを入れるまではオンのままです。プログラムのコンパイル中のDEBUG のアウトプットに付いては、ASMBUG ステートメントを参照して下さい。

例：

```
DEBUG ;  
LSQ(PRINT) EQNAME ;  
NODBUG ;
```

この例では、非線形最小二乗推定の実行中にデバッグアウトプットを出力するようにしています。

アウトプット：

DEBUG は、通常かなり多くのアウトプットを出すので注意して用いて下さい。例えば、データ領域からの入出力毎 (VPUT/VGET) にプリントされ、この機能はプログラムの進行を追いかけますが莫大な量になります。非線形のプロシジャーでは、全ての入力データと方程式の微分の結果がプリントされます。全ての推定のプロシジャーでは、計算に含まれている行列はイタレーション毎にプリントされます。

全てのインプットコマンド行は、日付、点、リストを変換する前と後でプリントされます。推定以外のプロシジャーのいくつかでも、このスイッチがオンの時は特別のデバッグアウトプットを出力します。